

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500835		
法人名	社会福祉法人 田尻福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームひだまり	ユニット名	
所在地	宮城県大崎市田尻大貫字境36-1		
自己評価作成日	平成24年9月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年4月に公設民営で開設された我がホームは「もう一つの我が家での喜びと安らぎのある生活～のんびり・ゆったり・私らしく～」を理念に掲げています。近隣の幼稚園と小学校とは、定期的な交流を持ちながら行事への招待もいただいています。また、定期的なボランティアさんの訪問は、職員も利用者も心待ちにしている、特にお花見会などのイベントの時には活躍していただいています。地域の方々との関わりも区長さんや民生委員さんをはじめとして、たくさんの皆様からお力添えをいただきながら、地元のお祭りにも出演者として参加しています。更に、今年の8月からは、夜勤職員2名体制と看護師の配置で、事業運営目標としている「健やかで喜びのある暮らし」ができるように職員のチームワークで生活全般を支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年9月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の小高い丘陵地の緑に囲まれた静かな環境の中にある。小学校、幼稚園が隣り合わせにある。同施設のデイサービスも廊下で繋がりが昔からの友人が茶のみにくる等の交流が続いている。公設民営の指定管理者として10年前に開設されただけあって、行政との呼吸もぴったり町の自慢の施設として地元へ愛されている。開設当初から地域の北又自主防災組織が組み入れられていて、協力関係がある。駐在署のパトロールも適時に行われ情報を提供してくれる。運営推進会議も2か月に一度開催され、活発な双方向の会議の議事録が確認された。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 認知症高齢者グループホーム ひだまり)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所基本理念を素に、年度ごとに事業運営目標を設定し、計画・立案(理事会にて承認をもらっている)をして、実践につなげている	「もう一つの我が家での、安らぎと喜びのある生活」の理念を掲げその人らしく生活できるよう支援している。家や家族との隔絶を意味するものでなく、もう一つの我が家という理念で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関先の季節の生け花をして頂き、野菜をいただいたり、地域の行事(夏祭り、秋例大祭、かんぼやま祭りなど)に参加することで関係が、深まってきている。冬季のイルミネーションの寄附もいただいている	開設以来10年理事長の熱意が地域に伝わり、玄関先の生け花や季節の野菜の頂き物、クリスマスのイルミネーション等の提供がある。夏祭り、秋例大祭、かんぼやま祭り等地域の行事には積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々の相談には、個別に対応している。認知症キャラバンメイト研修を受講したり、介護者家族の会にも参加した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回の開催を目標に計画を作成しながら、時事の出来事、利用者や職員の日常の報告などをしながら、参加者のそれぞれの立場からも意見をいただきながら会議をしている	北又区長、民生委員、家族代表、駐在所巡査長、大崎福祉課、公民館館長、福祉会職員等の参加のもと年6回の開催を確認している。内容も充実していてこれらの意見や提案をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	公設民営での開設、大崎市からの指定管理を受けていることで、実情は理解され相談等もしやすい状況にある。法人からは、決算報告もされている	大崎市福祉課とは常に連絡相談を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを運営推進会議等により報告し協力関係を築いている。指定管理者という立場からも、事業者から決算報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束とリスクマネジメントとの関係性が理解できるように内部研修を開催し、ケアに活かしながら取り組んでいる	身体拘束の弊害を全職員の内部研修で理解しケアに活かしている。日中の鍵かけの常態化も無い。利用者の外出の傾向を把握し対応している。又地域の理解を得るべく、運営会議には関係者にお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を開催しながら、各職員がどのような時に虐待と感じるか、不安にかんじることはないか話合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて理解を深める努力をしている。また、必要に応じて相談するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、利用契約書や重要事項説明書等関係書類の説明をおこない、出来る限りの不安や疑問が解消できるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価結果を運営推進会議で報告し、意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。大崎市のあんしん介護相談員の受け入れもして意見を伺っている	家族の来訪時職員に気軽に相談できる雰囲気である。運営推進会議で家族代表から意見要望、又大崎市民生部高齢福祉課のあんしん介護相談員が年2回訪問し不平、不満、要望の声を伺い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間2回の人事考課制度で、職員は事業計画に基づき個人目標を設定しているが、担当業務や日常業務からも改善提案制度を利用しながら反映させている	当施設独自の人事考課制度、改善提案制度が設けられ、ステップアップシート、改善提案シートを使い、意見を引き出している。代表者、管理者は職員の働く意欲の向上や人材育成に努めている。職員のヒヤリングで確認している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の人事考課制度では、自己評価から全体評価で、個人の実績や努力を評価しながら給与に反映されるシステムを活用し、職場環境改善にも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた外部研修の受講をしながら、内部研修の場も設けている。日々の業務でも必要に応じてアドバイスできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県GH協会に加入していて、GH協会主催の研修参加や交換研修をしながら情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には、必ず本人にお会いして、心身の状態や想いを汲み取るようにしている。不明な点は、家族からの情報で確認しながら、安心できる場所として実感されるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過も含め、サービスの利用状況や家族の考え、要望を伺いながら、信頼関係が早く作れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身状態を把握しながら、出来る限り柔軟な対応を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	される人、する人でなく、人生の先輩として敬いながら、職員は聴く姿勢を持ち、安心して落ち着いた生活ができるような支援を心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	双方が、それぞれにどのように思い、考えているかを受け止め、家族の協力をいただきながら、本人を支え、関係を継続できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人が遊びに来て下さる。外出やドライブすることで、馴染みの場所が思い出としてよみがっている	馴染の理美容院が来てカットしてもらったり、気候のよい日は、ドライブで思い出探し。今回デイサービスからの馴染の友人が遊びに来ている光景も確認された。先日塩釜からゲートボールの仲間が、ナスを持参してくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報を共有し、職員が臨機応変に対応できるようにし、日々穏やかな気持ちで過ごすことができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者に移った利用者についての情報提供をしたり、その後の家族の思いなども把握しながら対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの会話からも判断し、早めに解決できるように対応している。難しい場合は、必要に応じて話合ったり、毎月のカンファレンスで検討している	センター方式で本人の生活歴、趣味等を把握し支援策を探り常に振り返りケアの実践をしている。本人が何を望んでいるか、日々の関わりの中から判断し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者からも聴き取りをしながら、情報を集約し、活用や継続できる事の把握に努めている。話をするだけでも思い出してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人毎の記録を活用しながら、生活リズムを捉え、日々の体調管理を考慮して、関わりの中から見極められるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりで、本人や家族の思いや意見を聴きながら、事業所以外の関係者からの意見も含め、職員の気づきも介護計画に反映されている	生活援助プランでは具体的に必要な支援が長期、短期目標がたてられている。カンファレンス記録アセスメントまとめシートには個々に合ったケアの工夫が記録され現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2種類のシートを使い記録している。職員の気づきが、個別ケアに活かせるように、情報の共有や介護計画の見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に添った、柔軟な対応を心掛けている。急なニーズへの対応も可能な限りしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長や民生委員からも情報をもらえている。また、地域の「ボランティア友の会」所属のボランティアが定期的に来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院には、職員が代行し付き添っていて、必要時には、家族の協力をもらっている	協力医院は大崎市民病院田尻診療所、涌谷町国民健康保険病院、かかりつけ医としていた利用者も多い。通院には職員(看護師)が代行し付き添っている。家族には毎月のお便りで経過を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師への相談や主治医のいる診療所の看護師には、平日であれば直ぐに連絡を取り、指示を仰げる状態。また、隣接するデイサービスの看護師にも協力をもらえる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と連携して、情報交換が速やかに行え、入退院がスムーズに運ばれるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応確認書での意向確認をしながら、その時の状況に合わせた対応をしている。医療連携体制も整え、関係者と相談しながら、取り組んでいる	事業所独自の目標達成計画を立て、この度「急変時及び体調変化、重度化対応確認書」を作成、事業所でできる事を十分に説明し方針を共有すべく家族の確認を終了した。医療連携体制に関する指針も整えチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、2年に1回の救急法を受講して消防署職員からのAED指導も受けている。ホーム内にもAEDを設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や地域との訓練を実施している。また、この地域「北又自主防災組織」の組み入れられていて、災害時には、協力をもらえるような体制ができている	年に2回の田尻消防署指導の避難訓練を実施している。大震災を経験し、防災の認識を新たに改善を図っている。発電機の重要性、灯油の備蓄等、またスプリンクラー、自動通報装置、定期点検も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言葉かけのタイミング、声の大きさなどに配慮しながら、その場の状況に合わせた対応を心掛けている	呼び名はさんづけで、声の大きさを配慮しながら、失禁や失敗の際は人前で恥ずかしい思いをさせないように、目立たない言葉掛けに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めつけ、押し付ける事がないように複数の選択肢を提案し、利用者が自分の意思決定できる場面を作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、時間で区切った過ごし方はしていない。個人の体調に配慮しながら、その時の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に添った対応をしている。馴染みの美容院への外出支援もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、季節や好みに配慮しながら職員がローテーションで作成している。また、利用者の能力と体調に応じて準備や片付けをしている	季節物の野菜を中心に減塩等に配慮して献立をたてている。当日は収穫された新米のさつまいもご飯であった。入居者の能力に合わせて準備や片付けをしていた。誕生日にはリクエスト食を職員と共に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の水分量は、毎日把握しているが、食事量は、注意が必要な利用者のみチェックしている。また、栄養などの食に関する勉強会を法人の管理栄養士に講義してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けをしたり、義歯の洗浄をしている。また、現在、4名が歯科医院の口腔ケアを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやタイミングを考慮し、声掛けしている。身体状況や皮膚状態から出来るだけ布パンツを使用できるように排泄の意思確認などをしながら支援をしている	排泄チェック表を利用し入居者のパターンを把握し、トイレの排泄を促し自立支援をしている。皮膚の状態を下着の使い分けをしている。下剤を飲んでる入居者の薬が軽く変わっていくのがうれしいという。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人毎に便秘対策をしながら、便秘にならないような飲食物の工夫(特に繊維質、野菜、水分を多く)や運動のすすめをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴剤を使用したり、入りたい頻度や時間に添って対応している。入りたいという気持ちも変化するので、状況に合わせた声掛けやタイミングで支援している	毎日でも好きな時間に入浴できる。入浴嫌いの人がいたが職員のちょっとした配慮で、誰々さんと一緒ではどうかと勧めたら入浴したという。次の日から、一人で入浴始めたという事例の話があった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせたペースで行動してもらえるように配慮し、おやつや昼寝もしている。また、ビデオ体操、風船バレーなどで適度に身体を動かさず工夫をして、ぐっすり眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に服薬ファイルを作成し、直ぐに見られるようにしている。また、服薬変更等は、記録や申し送り等で確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で、それぞれの力を発揮してもらえよう、出来そうな仕事はお願いしている。また、把握している趣味等で気分転換してもらえるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気を考慮しながら支援している。誕生日を利用しながら、本人の希望を聞いて個別に対応をしている。また、ボランティアの協力をもらいながら外出もしている	公民館、メダカさんなどの周辺の散歩、隣りのデイサービスの踊り見学、幼稚園交流会、小学校行事見学、スーパー買物、他初詣から年間を通して、花見、加護坊山、長沼、アヤマ園、伊豆沼白鳥見学等、家族やボランティアの協力を得ながら外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額でも自己管理している利用者もいる。また、回数は少ないが、買い物をして使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、家族や兄弟と連絡が取れるようにしている。年賀状を出している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけなどは、利用者に手伝ってもらいながら、季節に応じた飾りつけを工夫している。特に、温度には注意して調整している	共用の空間は不快感は無く、適温、適湿良く管理され、換気も良く空気のよどみや臭気も無い。昼食後の昼寝の時間帯はテレビも消され節電の為の照明は調節されていた。季節の感じられる切り花や利用者の趣味の手芸品が壁に貼られ工夫のあとが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下にフリースペースがあり、居室以外でも一人になりたい時や来客時の語らいの場にもなっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物をお持ちいただき、身体状況によっても使いやすいようにしている。新しい物は、自分の物ではないと言われる事を家族にも理解してもらっている	入居者の居室は馴染みの物が持ち込まれきれいに整理されうまく配置されていた。夫のお位牌や写真を持ち込まれた居室もあった。いずれもプライバシーを大切にしながら安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの視点に合わせ、安心で安全な生活が送れるよう、状況に合わせた環境整備をしている		